（別紙1）　　2019 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0790300503		
法人名	株式会社　人輝		
事業所名	グループホーム　輝たむら		
所在地	福島県郡山市田村町金屋字上川原269-1		
自己評価作成日	令和2年4月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232　福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々、ご利用者様に感謝していただけるよう・笑顔になっていただけるよう、利用者の思いを大切にし、家族様・地域の方々、共に働くスタッフとの交流を大切に支援していきます。
毎日、手作りの食事を提供し、日々のレクリエーションと併せ、リクエストのあった場所へ外食に出掛けたり、ドライブや季節の行事など賑やかに過ごしていただいております。利用者様自身が住み慣れた地域で、なじみのスタッフが支援を行うことで、笑顔あふれる施設生活を送っていただけるよう介護していきます。感染予防の為、手指消毒の徹底と、テーブル、手すり、ドアノブ等の消毒を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は職員の意見や提案を受け入れ、利用者にとって何が最善かを考え、できること・改善すべき点を話し合い、その人らしく暮らせるようケアに取り組んでいる。
感染症対策で外出が難しい中、室内で体を動かすレクリエーションを増やしたり、手作りのおやつを充実させたりして、利用者の安全を守りながら笑顔を増やす工夫を重ねている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示し、朝礼時に唱和している。	理念をもとに、利用者も職員も笑顔になれるように、協調性をもって支援にあたっている。職員の提案を積極的に取り入れ、利用者によりよいサービスを提供できるよう日々努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1回/2ヶ月の運営推進会議において毎回　町会長様や包括支援センターの方々と交流を交わしている。 今年は近所の小学校・中学校の行事や地区の文化祭に参加する予定である。	近隣の店舗に、おやつや日用品を買いにでかけている。夏祭りや流しそうめんなどのイベントは、近隣に声をかけて一緒に楽しんでいる。和太鼓の演奏などのボランティアを受け入れ、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月　行いヒヤリや事故について色々な意見を交わしたり、地区の行事等の情報を頂いてサービス向上に活かしている。	町会長からの情報をもとに地域のイベントへ参加を検討するなど、地域とのつながりを深めるきっかけとなっている。家族からの質問や意見、包括支援センターの方の助言など、幅広い視点を大切にしてケアの見直しにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に取り合っている。	必要に応じて、介護保険課や生活支援課などに連絡をとり相談をしている。水害時に市の仲介で支援をうけるなど、協力関係を築いている。感染症対策や研修の情報をもらって、ケアに反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当する行為は見られていない。 委員会で現状確認を行っている。	定期的に勉強会を行い、言葉のかけ方などのテーマを決めて具体的に話し合い、職員が言動を振り返っている。外部の研修にも積極的に参加して職員の意識を高め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し学ぶ機会を設け、職員会議時にフィードバック研修を行っている。 事業所内の虐待は見られていない。 委員会で現状確認を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方には弁護士にる後見人として対応して頂いている。 又、外部研修に参加しフィードバック研修を行うことで、周知していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容や重要事項を分かりやすく説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や口頭にて要望があると、日誌や生活記録シートにて申し送っている。	家族から利用者の話している内容が違っているとの意見があり、丁寧に説明して理解してもらっている。遠方の家族には、事業所のお便りや電話などで利用者の近況を知らせ、意見や要望をもらえるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回／1ヶ月のミーティングや個別面談等にて意見を吸い上げ改善できる事や要望は聞くようにしている。	職員の意見や要望を聞いて、日ごろのケアに取り入れ、できること・改善すべきことを話し合って、利用者がその人らしく暮らせるようにしている。資格取得や研修会への参加を呼び掛け、勤務体制を考慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの働ける条件等を考慮し勤務体制を組んでいる。 自己考査後も面談を行い、個々に向き合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中でベテラン職員が新人職員に対して指導している。 又、外部研修や内部研修に参加しその都度報告書を上げ、職員会議時にフィードバック研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	順次、内部研修に参加していただいたり、積極的に外部研修にも参加していただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	都度、本人の思いを傾聴し安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会に来た際や電話にて要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン等を通じ反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買物レクや近所への散歩、おやつ作り、レクリーエーション時等により関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、通院時等に築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折の外出時や面会時、親戚の方々や家族と交流している。	面会ができない状況の時は、お便りや行事写真などを送り、利用者の生活を知ってもらい、馴染みの関係が途切れないようにしている。入学式の晴れ姿を見てほしいので面会したいとの話があり、玄関先で会ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々レクリエーションを一緒にする事により交流を図っている。 利用者様同士のトラブル時は都度、席等の配慮を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	台風被害後、看取りをした方の家族様の厚意で出張お寿司屋を施設に呼んで下さったり、物資の申し出があった。 親族の方の相談等もあり、相談にのっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や、利用者様同士での会話で思いをくみ取り、定期的なモニタリングやカンファレンス、ケアプラン作成時に検討している。 会話が困難な方は表情や行動から意思を汲み取っている。	一人ひとりの表情や行動を見ながら、さりげなくそばに寄り添い話しかけたり、お風呂でリラックスしたときに話をするなどし、思いの意向をくみ取るようにしている。夜間、フロアにいたい利用者の様子を見ながら、話しかけを工夫し思いを話してもらえるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中や家族面会時、カンファレンスの開催時に情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や過ごし方は日々の関わりで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族様の意向を聞き、職員の気づき等をカンファレンス時に話し合いを行い、介護計画を作成している。定期的なモニタリングも行い状態変化時には、都度見直している。	本人・家族と話し合い、主治医の助言をもらい、安全・安心に暮らせるよう個別の具体的な介護計画を作成している。利用者の日々の変化や要望に応じて、柔軟に対応できるよう見直しを行い、本人・家族から同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型との連携を図り取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買い物や地域行事の参加を予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に家族対応にて通院し連携を図っている。 又、家族で対応が難しい方には訪問診療を利用されている。	本人や家族が希望するかかりつけ医や病院で医療がうけられるように支援している。家族対応の場合でも、必要に応じて職員が付き添い受診に協力している。受診結果はその都度共有して、ケアに反映している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/Wの訪問看護の来所があり、体調管理の相談が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や家族と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っている事を家族様に説明している。 医療連携加算を取る事で訪問看護師が1回/週来所し状態確認をし、終末期を安心して迎えられるよう看取りの介護計画を作成し、日々状態を確認しながら支援している。	入居時に意向を確認しているが、状況が変わったときにも話し合いをして、利用者や家族の考えを聞いている。医師、職員が連携をとり、利用者や家族の希望に沿って終末期をすごせるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命講習を受講している。AEDの設置をした際、講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員が避難誘導の流れを把握し、消火器の使い方を習い、実演し使い方を習得している。	避難所ですごすのが困難な利用者もいるため、市内に宿泊可能な避難先を確保している。台風の経験をもとに、災害時のマニュアルや避難訓練の内容を見直し、どんな時でも利用者が安全にすごせるように努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務の中で接遇等に注意したり、勉強会にて対応したりしている。 排泄の声掛けは、羞恥心に配慮し本人の近くで声掛けを行っている。	利用者の話をじっくり聞き、その方の性格や考え方を理解するよう心がけている。利用者同士がトラブルになりそうな場合には、職員が間に入って利用者が嫌な思いをすることがないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをケアプランに反映させ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースを尊重し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に本人の好みの合わせて衣類を選んだり、定期的に来所する訪問理美容の利用によりパーマやカラーを楽しみ、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の下準備をしたり、おやつレク時はホットプレートを使用し、おやつ作りを一緒に行っている。食事時は利用者様、職員共に同じ時間に同じ場所で食事をしている。	気候がよいときには、屋外で季節を感じながら楽しく食事ができる機会をつくっている。利用者の塩分制限や咀嚼力にあわせて調理方法を工夫して、食べる楽しみを感じてもらえるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、水分提供時に摂取量を記録シートに記入しチェックし、都度確認しながら提供している。 スプーン、フォークの種類や大きさも個々に合わせた物を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っている。また夜間は義歯を外し薬につける等し、残存能力に合わせた介助を支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて回数や状態を把握し対応している。	自立排泄を目標に、オムツからリハビリパンツ、布パンツに変わる事ができるよう、根気よくあきらめないで見守り、無理強いしないケアに取り組んでいる。失敗したときは、周囲に気づかれないよう声かけし誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬で対応しているが、出ない方には乳製品をおやつ時に提供したり、運動をしていただく等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望と体調に合わせ、季節の菖蒲湯やゆず湯、寒い季節は乾燥に合わせ保湿効果のある入浴剤の利用等している。また、入りたくない方や体調不良時は足浴やシャワー浴等に切り替えて対応している。	利用者のこれまでの生活習慣などに合わせて、個別に入浴ができるようにしている。衣服の着脱時は、羞恥心を考慮し見守り、安心して入浴できるようにしている。嫌がる方には声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時には飲み物を提供したり話を傾聴したりしている。独りで寝られない時は和室に布団を敷きスタッフの目の届く場所にて休んで頂く等をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認と家族からの受診時の状況を聞いたりすところにより変更になった際は日誌等で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクにて楽しんで過ごして頂き、おやつレクや外食レク、ドライブにより気分転換や季節感を味わっていただける様支援している。 個々の嗜好品も把握し、食事時やおやつ時に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの公園まで散歩をしたり、季節ごとの行事（花見、バラ園、案山子ロード、田んぼアート、紅葉）ドライブに出かけたり、ベランダでの昼食会やプランターに野菜や花を植え育て、後に収穫し味見する等を楽しんでいる。	事業所の行事で出かけるときは、車いす対応トイレ・歩行経路など事前に下見を行い、安心・安全に外出できるようにしている。事業所内に菜園を利用者と一緒に作り、苗を植えたり・育つ楽しみなど外へ出る機会を多くしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設預かりになっている。欲しいものは一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望がある際は電話等にて対応している。また、家族や本人の希望にて携帯電話を持参している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りや花等にて季節感を出している。また行事の写真を掲示し廊下を歩かれる際、写真を眺めたり、利用者様同士の会話のネタにもなっている。食堂兼フロアには大きな窓から光が差し込み季節感を感じられるようになっている。	利用者の歩行の妨げにならないよう、物は置かないよう動線を確保し安全に配慮している。手すりが右手側と左手側があり、その人に合った排泄ができるようにしている。感染予防として、マスク・検温・アルコール消毒液を活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアで一緒に歌をうたったり、お茶を飲みながらおしゃべりしたりしている。また、畳のスペースにて休まれたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室は全個室であり、自宅より本人が大切にしているものを持って来たり、入所前に使用していたタンスを置いたり、家族と撮った写真を飾ったりしている。	居室の入り口に本人の写真を貼り、わかりやすいようにしている。お掃除・衣替えは職員が行い、整理整頓し、清潔に居心地よく過ごしてもらえるようにしている。ベッドの持ち込みや身体状況に応じて布団にするなど、自由にその人に合った生活ができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下と階段に手すりを付け安全に歩行できるようにしている。		